

(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター調査報告書第68集

北川内遺跡

- 広域河川改修事業に伴う北川内遺跡発掘調査報告書 -

2001.9

(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター

(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター調査報告書第68集

北川内遺跡

- 広域河川改修事業に伴う北川内遺跡発掘調査報告書 -

2001.9

(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター

巻頭カラー



完掘状況(北から)

序

北川内遺跡のある春野町は、平成 10年 9月の集中豪雨によって甚大な被害を被りました。町内を貫流する新川川とその支流の氾濫、冠水によるものです。高知県では、付近一帯の治水対策として、大規模な河川改修事業を実施することとなり、これに伴って埋蔵文化財の調査も開始されることになりました。

新川川は、近世以降、当地域の重要な輸送・交通路としての役割を果たしてきた河川であり、流域には春野町の歴史が刻まれた遺跡が数多く存在しております。これまでは、山根遺跡や西分増井遺跡など中流域の遺跡が知られておりましたが、この度の調査によりまして下流域にも遺跡のあることが明らかとなりました。北川内遺跡もその一つです。下流域の遺跡は中・上流域の遺跡に比べて厚い粘土を被っており、冠水を繰り返して来た歴史を雄弁に語るものです。

今回の調査は面積も狭隘であり、検出遺構は弥生時代の溝 1条ではありますが、太古の人々が自然と如何に共生しながら生活を営み続けてきたのかを知る上で貴重な資料であると思います。春野町という小地域の中でも、流域の位置によって自然との接しかたが異なり、そこから生活の知恵が生まれ固有の文化性が育まれてきました。遺跡は、それがどんなに小さなものであったとしても地域の歴史を知る上において掛け替えのないものであります。本報告書は小冊子ではありますが、地域の歴史の復元の一助となることを念願したいと思います。最後に、炎天下、発掘作業に従事してくださった方々、及び調査において数々の便宜をはかって頂いた高知県伊野土木事務所に対して厚くお礼申し上げます。

平成 13年 9月

(財)高知県文化財団 埋蔵文化財センター
所長 門田 伍朗

例 言

- 1 本書は、平成 13年度広域河川改修事業に伴う北川内遺跡発掘調査報告書である。
- 2 北川内遺跡は、高知県吾川郡春野町西諸木北川内に所在する。
- 3 発掘調査は、高知県伊野土木事務所から委託を受け高知県文化財団埋蔵文化財センターが実施した。
- 4 業務委託期間
平成 13年 4月 21日～9月 30日（現地調査期間 4月 26日～6月 19日）
- 5 調査面積
調査対象面積 1000㎡ 調査面積 410㎡
- 6 調査体制
調査担当 調査員 小嶋博満（財団法人 高知県文化財団埋蔵文化財センター専門調査員）
総務担当 中条英人（財団法人 高知県文化財団埋蔵文化財センター総務課 主幹）
- 7 本書の執筆・編集は小嶋博満が行った。
- 8 現場作業および整理作業には下記の方々に従事して頂いた。
現場作業 岡田稔夫 川淵ミチノ 久保壮司 徳平真也 富本泰雄 村松広海 明神忠義
横田佐美子
整理作業 松木富子 浜田雅代 山口知子
- 9 出土遺物については、「01- 11K H」と注記し関連図面・写真とともに(財)高知県文化財団埋蔵文化財センターで保管している。

本文目次

調査にいたる経過及び調査の経緯	1
遺跡の位置と環境	2
1. 地理的環境	2
2. 歴史的環境	2
調査結果	3
1 基本層準（西壁セクション）	3
2 検出遺構	3
3 出土遺物	3
まとめ	12

挿図目次

Fig.1 北川内遺跡位置図	1
Fig.2 北川内遺跡の位置と周辺の遺跡分布図	4
Fig.3 調査区位置図（1）	5
Fig.4 "（2）	6
Fig.5 基本層準（西壁セクション）	7～8
Fig.6 S D 1 平面図及びセクションポイント位置	9～10
Fig.7 S D 1 セクション図	11
Fig.8 出土遺物実測図	12

図版目次

PL1 調査前全景	15
PL2 西壁セクション（a - b）	16
PL3 "（c - d）	17
PL4 S D 1 セクション	18
PL5 "	19
PL6 S D 1 完掘状況	20
PL7 縄文晩期土器出土状況	21
PL8 縄文晩期土器、須恵器出土状況	22
PL9 須恵器出土状況	23
PL10 縄文晩期土器・須恵器	24

調査にいたる経過及び調査の経緯

1998年9月24日高知県中央部は集中豪雨（高知豪雨）による甚大な被害を被った。特に春野町の新川川流域の浸水被害は大きく、氾濫水は流域のほとんど全域で堤防を超えて、家屋や田畑を泥の海と化してしまった。家屋の床上浸水290棟、床下浸水41棟、氾濫面積703ha 一般被害額170億円にのぼった。新川川流域は、河口付近の低平な地形や河口での滞留により、流下能力が低いことから度々浸水被害を繰り返していた地域であったが、今回のような被害は空前のものであった。

新川川では、治水効果を高めるための河川災害復旧等関連緊急事業が採択され、99年～200年度に事業が実施されることとなった。このことを受けて、(財)高知県文化財団埋蔵文化財センターでは、2000年度に新川川及びその支流域について試掘調査を実施した。

芳原川流域については、200年1月に16箇所の試掘調査を実施したところ、試掘グリッドNo.13地点において、地表下2.5mのところ壁面にV字状の溝状落込みを検出した。溝埋土及び周囲から遺物の出土がなかった為に、溝状遺構の時期を判定することはできなかった。しかし深度や溝埋土および付近の状況、さらに当地点に隣接して竹ヶ鼻遺跡や松本遺跡が立地していることなどから、弥生時代の遺構の可能性が考えられた。そこで芳原川右岸の試掘グリッドNo.13付近1000㎡について、新発見の遺跡として当地の字名を用いて北川内遺跡と命名した。

芳原川の河川改修事業が計画通り進められると遺構が削られるため、事業者である高知県伊野土木事務所と文化財保護部局である高知県教育委員会が協議を行い、記録保存のための本調査を実施することとなった。本調査は、(財)高知県文化財団埋蔵文化財センターが行うこととなり、伊野土木事務所と埋蔵文化財センターは200年4月20日に北川内遺跡発掘調査の委託契約を締結し、200年4月26日から調査を開始した。

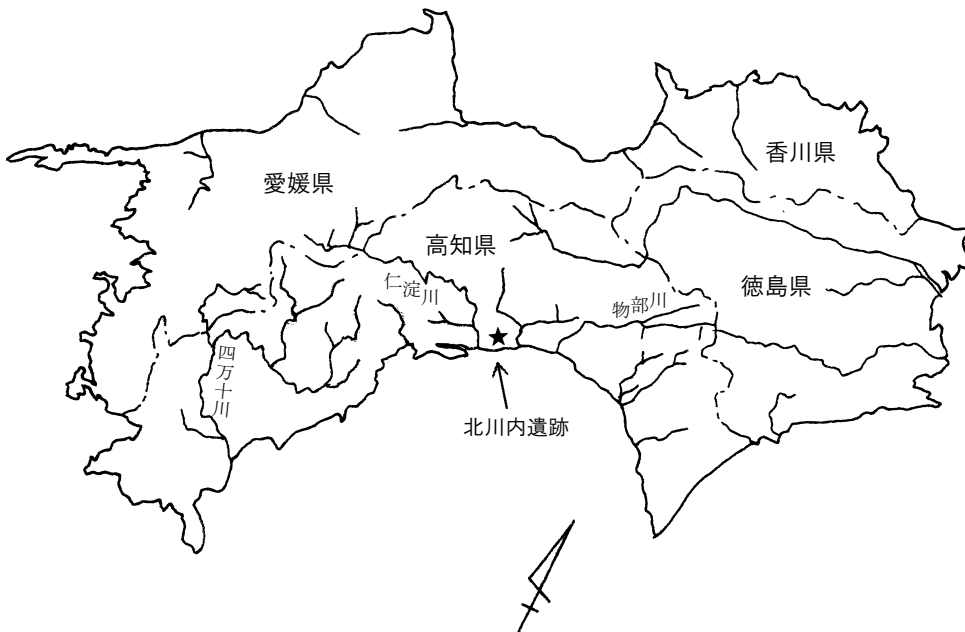


Fig.1 北川内遺跡位置図

遺跡の位置と環境

1. 地理的環境

春野町は、高知県のほぼ中央に位置し、高知から西に約15kmにあり、面積は約46km²を測る。ビニールハウスによる園芸作物や花の栽培を行う都市近郊の農業地帯であるが、近年では高知市のベッドタウンとしての新興団地開発が盛んになっている。

春野町の地形は、東西に帯状に3区分され、北部山地、中央低地、南部丘陵になっている。北部山地は東西に走る入不山脈の一端部であり、高知平野と吾川郡の平野を二分して町内を一望できる最高峰烏帽子山、鷲尾山、吉良ヶ峰と連なっている。中央低地は、仁淀川の堆積物によるもので吾南平野と呼ばれ主要な生活舞台となっている。南部丘陵は高森山を中心とした妙見山地であって周囲に山脚を分岐し、これらの山脚には侵蝕谷が発達し水田を養ってきた。

北川内遺跡のある西諸木は、春野町の南東に位置し、南は新川川河口の甲殿に接している。付近一帯が低湿地であり、田畑はこれまで埋立による底上げを繰り返して来ている。北川内遺跡は、新川川の支流である芳原川右岸の沖積低地に立地し、標高2.5m前後、海岸線からは直線距離で1.9kmを測る。

2. 歴史的環境

春野町の歴史は、山根遺跡や西分増井遺跡出土の遺物や検出遺構から縄文時代後期にまで遡ることが確認されている。晩期の状況は不明であるが弥生時代前期になると再び山根遺跡や西分増井遺跡で集落が営まれるようになり、後者からは3棟の竪穴住居が検出されている。中でもST15はいわゆる松菊里型住居に属するものである。この他、海岸部の仁ノ遺跡からも前期前葉の土器がまとめて採集されており注目される。中期から後期前半については現在のところ良好な資料を欠いているが、北川内遺跡の西隣の南浦遺跡からは中期末の土器が出土している。後期末から古墳時代前期になると西分増井遺跡やその西隣の馬場末遺跡で集落が形成される。前者からは、竪穴住居14棟とともに本県では極めて僅少な方形周溝墓が1基検出されており、さらに周辺部への遺構の広がりが考えられる。また西分増井遺跡の竪穴住居からは河内、吉備、阿波などからの搬入土器がまとめて出土している。山根遺跡や西分増井遺跡は、新川川の中流域に形成された微高地上にあって比較的安定した自然環境下にあり、吾南平野の黎明期において中心的な位置を占めていたことがこれまでの調査結果から知ることができる。

古墳時代前・中期を通して古墳は認められないが、北部の山裾から後期の須恵器の発見があることなどから、小規模な横穴石室墳が営まれていた可能性がある。7世紀には大寺廃寺が出現し再び新川川中流域が吾南平野の中心地となる。吾川郡衙の所在は不明であるが、この周辺に想定することも可能であろう。

参考文献

『春野町史』 春野町 1976年

江戸秀輝 『南浦遺跡埋蔵文化財発掘調査報告書』(財)高知県文化財団 1993年

調査結果

1 基本層準（西壁セクション）

XIII層 黄色シルト層で無遺物層である。西壁（c - d）で確認され東に向かって高度を上げている。

XII層 茶灰色粘土層で、層厚は2 cm ~ 4 cmを測る。

XI層 黄色粘土層で層厚は4 cm ~ 20cmを測る。

層 暗灰色粘土層で層厚は4 cm ~ 20cmを測る。

層 灰黄色粘土層で層厚は6 cm ~ 20cmを測る。縄文時代晩期の遺物包含層である。SD1の検出面である。

層 濃茶色粘土層で層厚は4 cm ~ 12cmを測る。弥生時代の包含層である。

層 茶色粘土で層厚は4 cm ~ 14cmである。

層 灰茶色粘土層で層厚は2 cm ~ 10cmを測る。

層 茶色シルト層で層厚は5 cm ~ 30cmを測る。

層 褐灰色粘土で層厚50cm前後を測る。古墳時代の遺物包含層である。

層 旧耕作土で、厚さ10cm ~ 32cmを測る。

層 旧耕作土で、厚さ8 cm ~ 24cmを測る。

層 客土である。灰黄褐色粘土で厚さ8 cm ~ 24cmである。

層 客土である。黄色の風化礫層で厚さ20cm ~ 60cmを測る。

基盤層であるXIII層から層までは南に向かって、上昇している。この方向に微高地が形成されていたことが判る。客土と耕作土を除けば粘土とシルトの堆積が厚く堆積している。古墳時代の包含層である層が堆積するころには、水平な状態になっていたと考えられる。

2 検出遺構

SD1

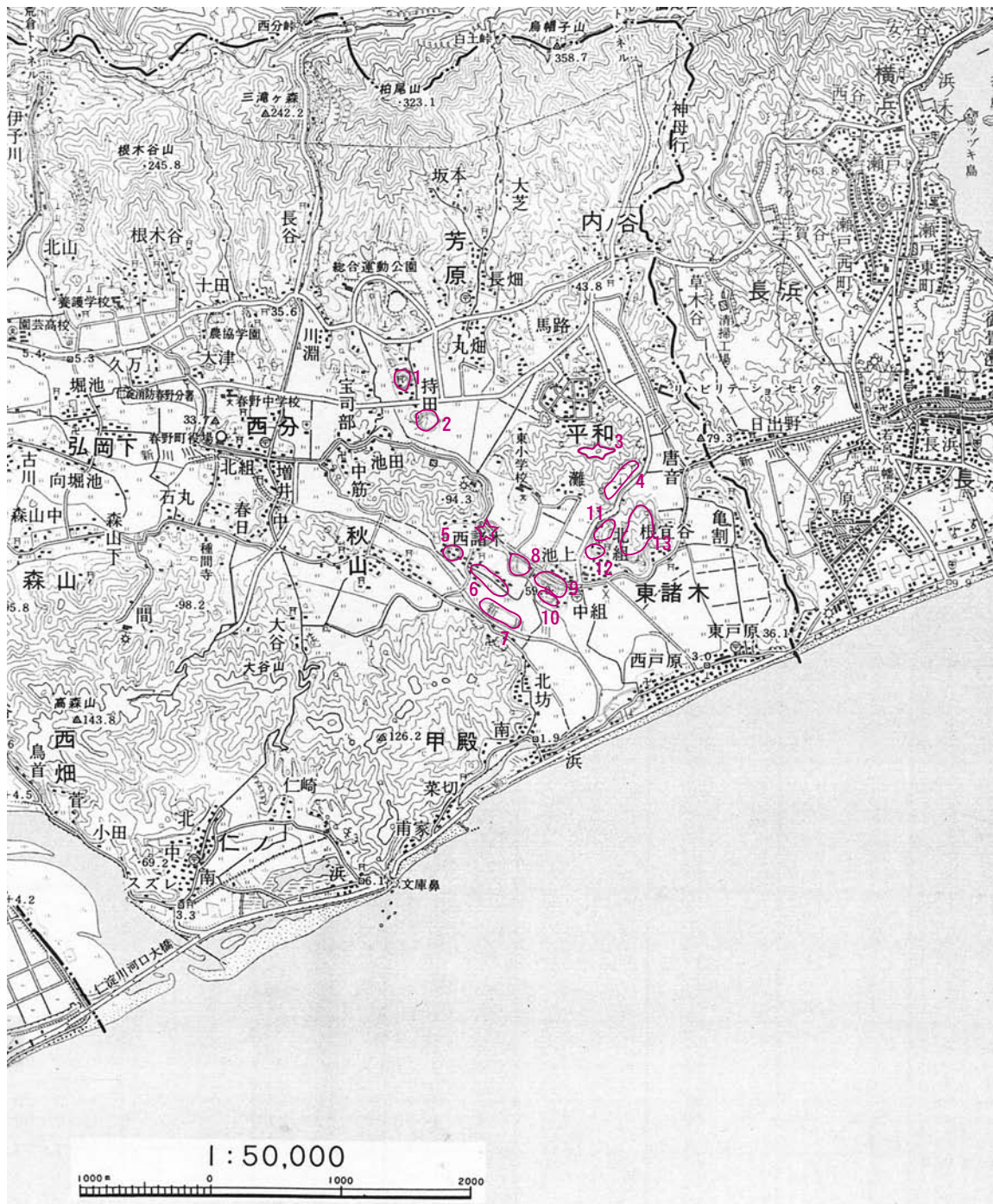
延長50m、検出面での幅1.0~ 1.6m、深さ50~ 70cmを測る。N - 10°~ 20° - Wの方向にのびているが、調査区南端近くで西方に屈曲している。断面はU字や一部段状を呈している。段状の部分は溝さらえのあとを示しているのかもしれない。床面のレベルは南端部で標高0.4m、北端部では0 mで0.4mの高低差が生じている。微高地から低地部に向かって掘削された溝である。埋土は層で粘土が堆積している。埋土中には崩落した壁面の黄色シルトがブロック状に見られたり、炭化物の薄い堆積もみられる。遺物は埋土上層から弥生後期前葉の細片数点と底部が1点（Fig.8 - 5）出土しているのみである。

3 出土遺物

(1) 土器

縄文晩期土器（Fig.8 - 1 ~ 4）

層より細片が10数点出土しているが、図示できたのは4点のみである。すべて深鉢の口縁部である。1は口縁部内面に1条の細い沈線が認められる。1・2・4の口唇部には浅い刻目が施されている。総じて外面は二枚貝による縦方向の条痕調整、内面はナデ調整がなさ



No	遺跡名	時代	No	遺跡名	時代	No	遺跡名	時代
	北川内遺跡	縄文～古墳	6	竹ヶ鼻遺跡	弥生～古墳	12	中組遺跡	弥生～中世
1	捨ヶ森城跡	中世	7	小島遺跡	弥生～古墳	13	東諸木遺跡	中世
2	芳原城跡	中世	8	安後遺跡	古代			
3	光清城跡	中世	9	雀ヶ森城跡	中世			
4	小原坂遺跡	古代～中世	10	南浦遺跡	古墳～中世			
5	松本遺跡	古墳～中世	11	北組遺跡	弥生～中世			

Fig.2 北川内遺跡の位置と周辺の遺跡分布図

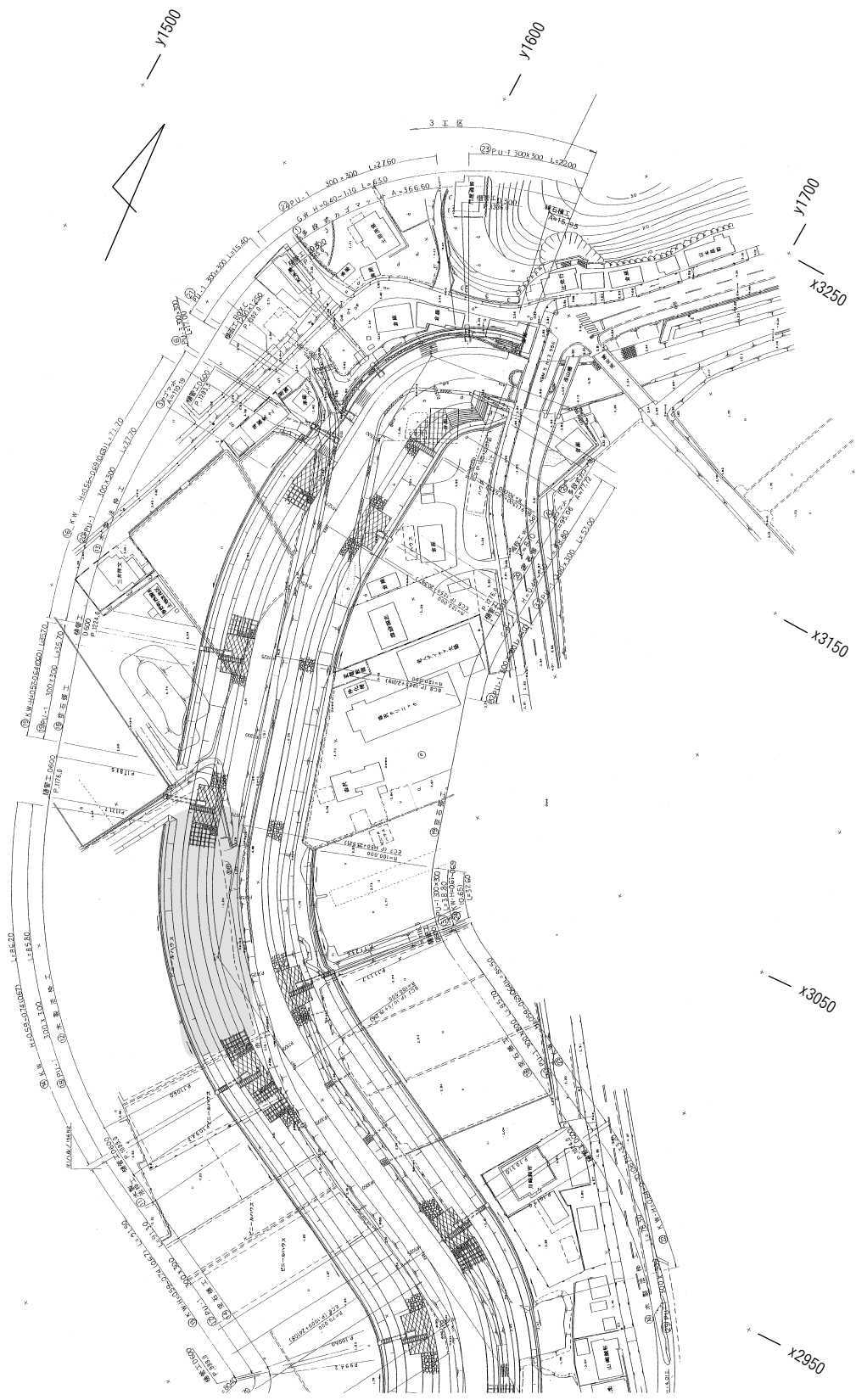


Fig.3 調査区位置図(1)()

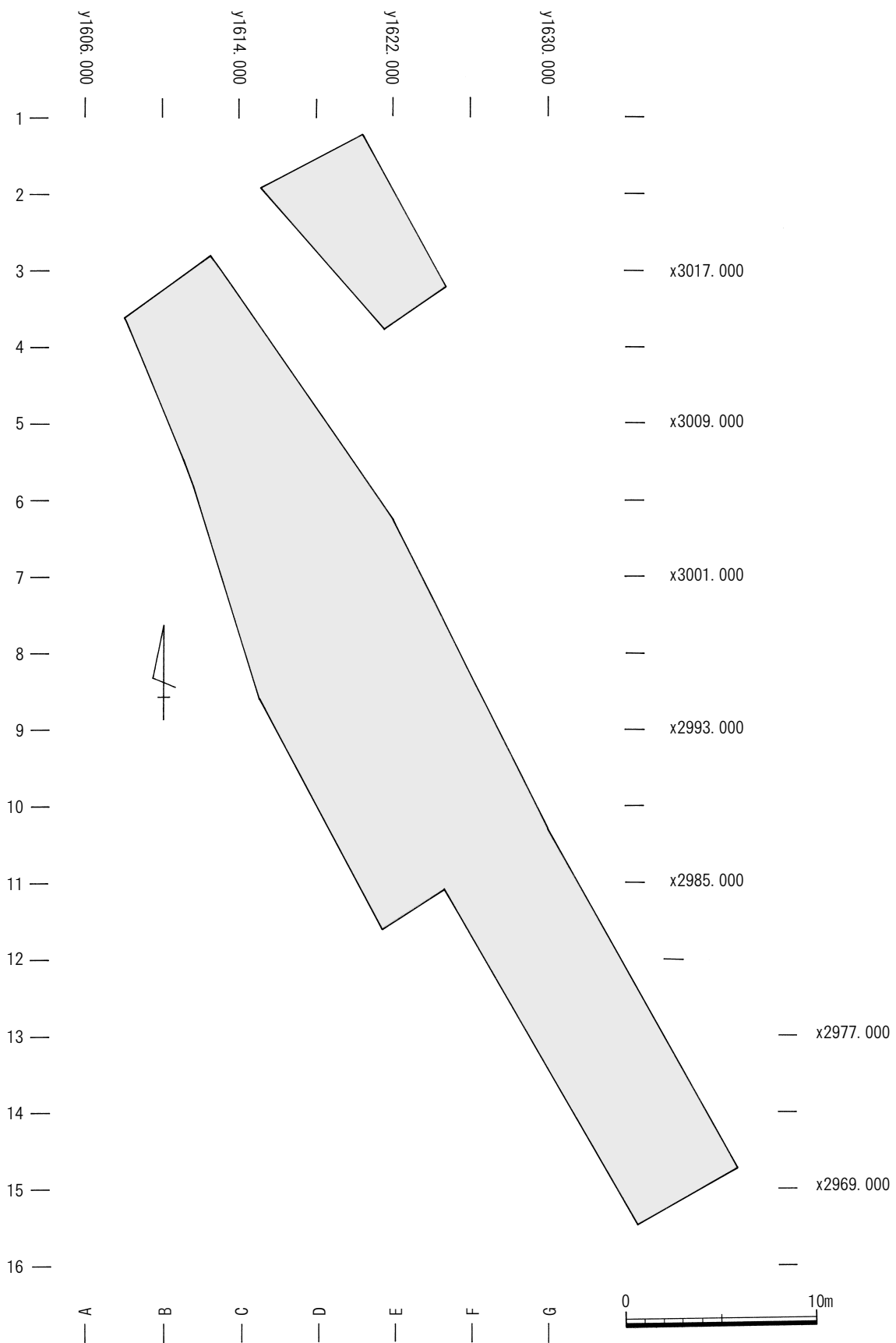
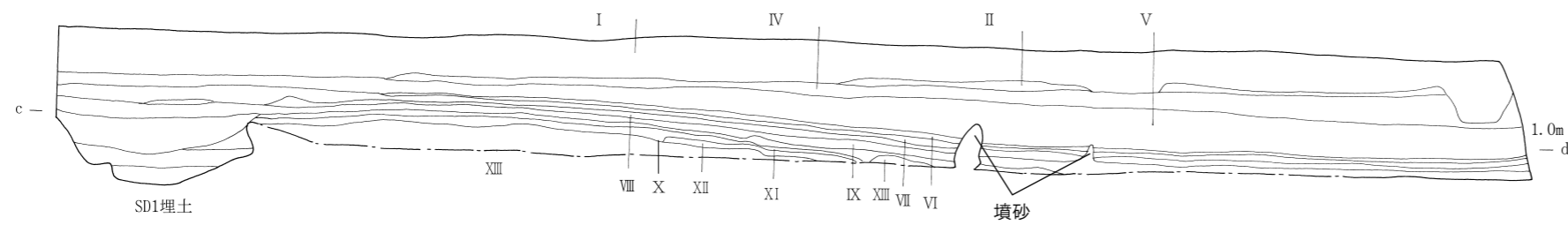
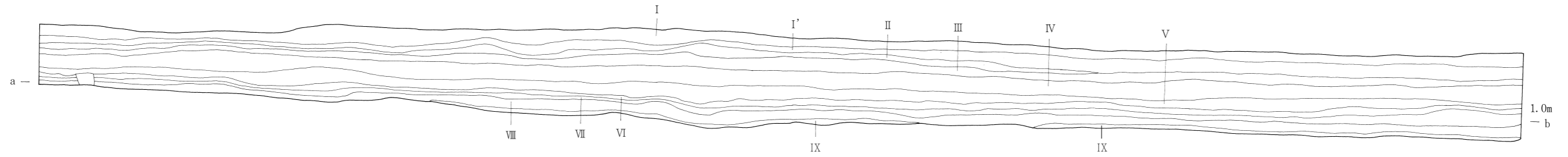


Fig.4 調査区位置図(2)



- I層 客土 (黄色礫層=山土)
- I'層 客土 (灰黄褐色粘土)
- II層 旧耕作土
- III層 旧耕作土
- IV層 褐灰色粘質土 (古墳時代の遺物包含層)
- V層 茶色シルト
- VI層 灰茶色粘土
- VII層 茶色粘土
- VIII層 濃茶色粘土 (弥生時代の遺物包含層)
- IX層 灰黄色シルト (縄文時代晩期の遺物包含層)
- X層 暗灰色粘土
- XI層 黄色粘土
- XII層 茶灰色粘土
- XIII層 黄色シルト (地山)



Fig. 5 基本層準 (西壁セクション)

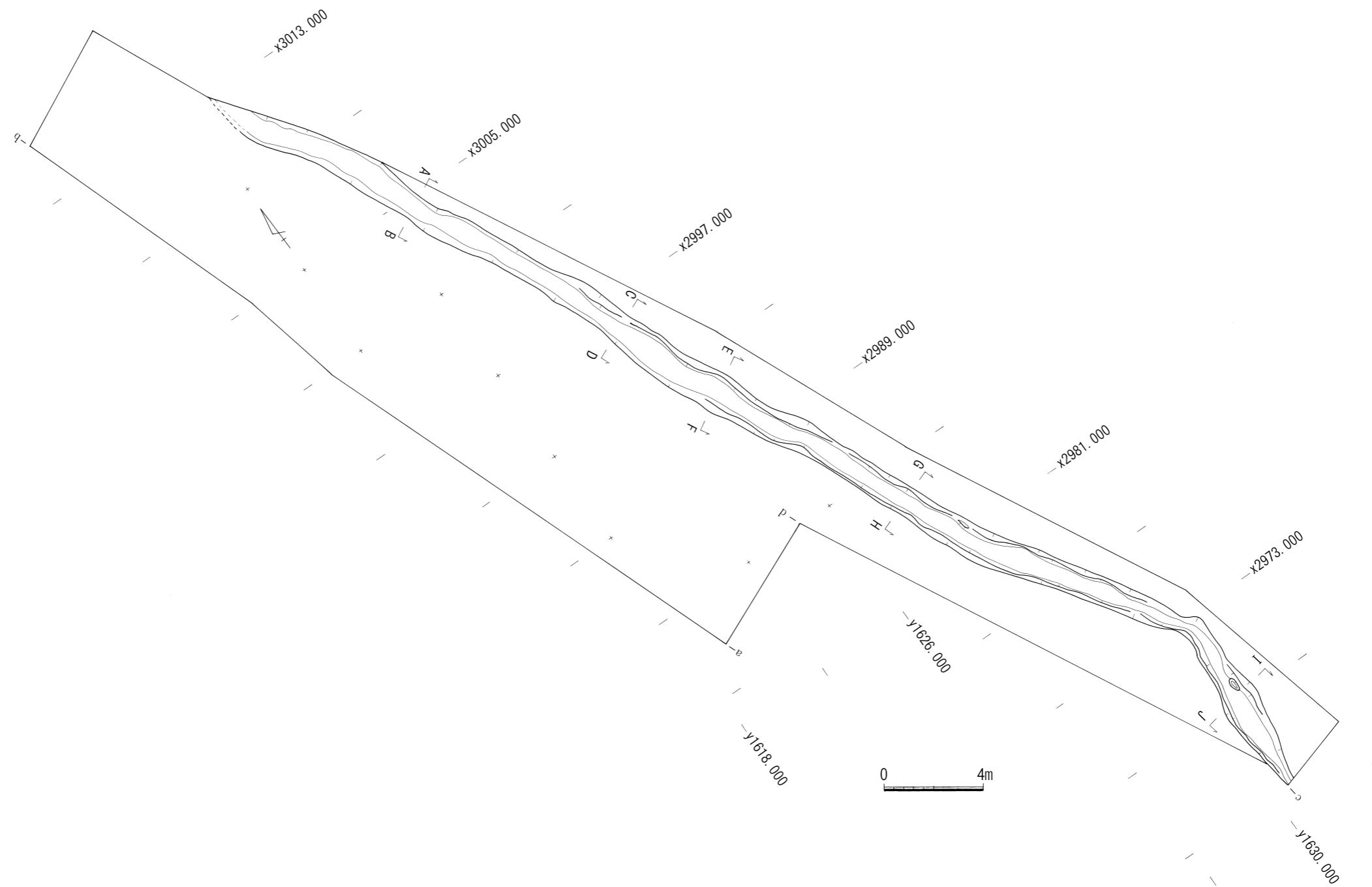


Fig. 6 SD1・平面図及びセクションポイント位置

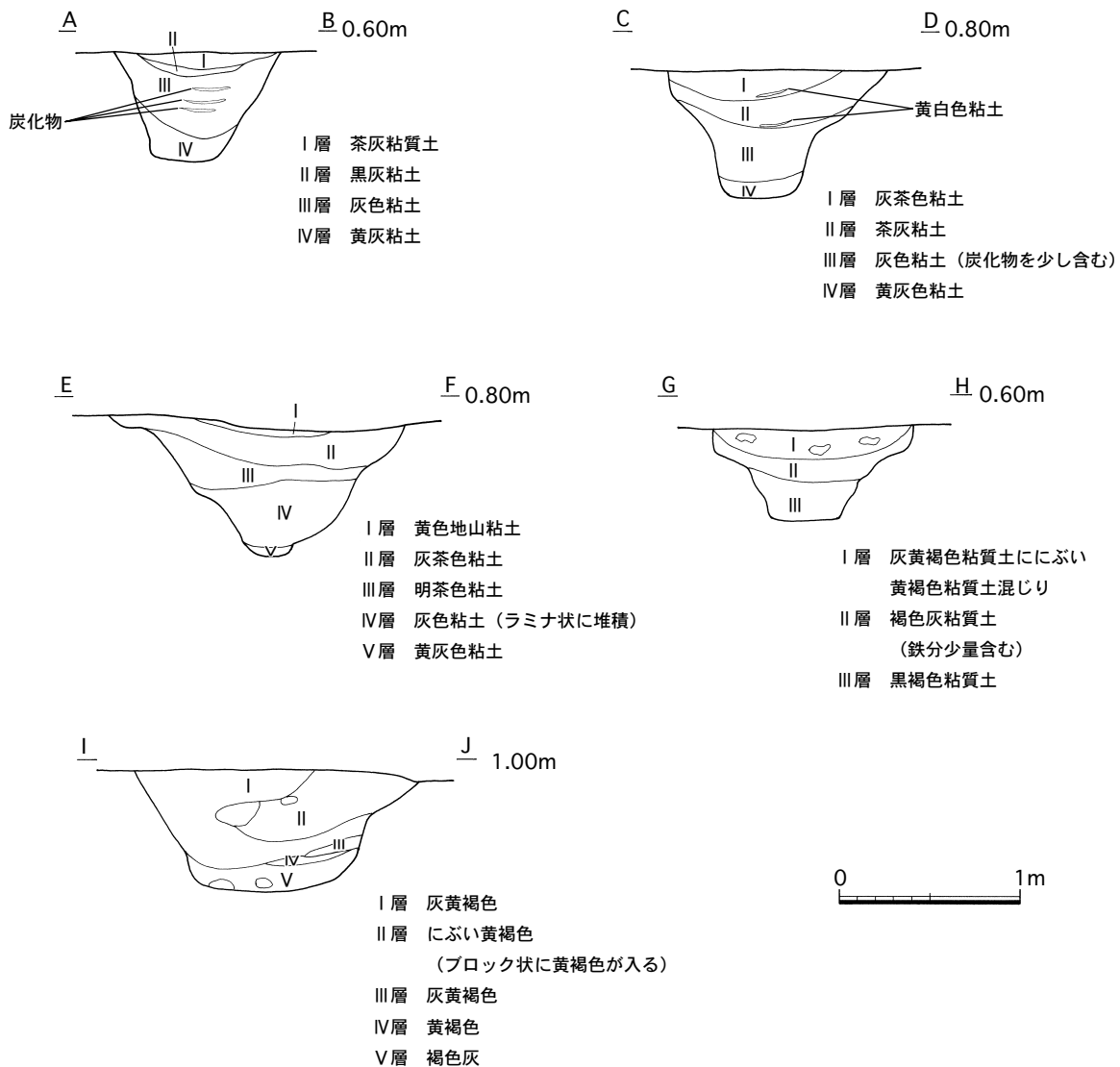


Fig.7 SD 1セクション図

れている。

弥生土器 (同 - 5)

図示し得たのは底部 1 点のみである。細片も含めて仁淀川流域特有の胎土である。

須恵器 (同 - 6・8・9)

6 は坏蓋天井部、9 は坏蓋口縁部である。6 の外面は左 右のヘラ削り、9 は内外面横ナデ調整が施される。8 は坏身である。底部外面は左 右のヘラ削り、他の部位は丁寧な横ナデ調整である。これらの 3 点は 層から近接して出土している。TK 43 に比定できる。

この他土器では、竜泉窯青磁碗口縁部が一点 (Fig.8 - 7) 出土している。15世紀に属する。

(2) 石鏝 (同 - 10)

西壁セクション (c - d) の 層から出土している。先端の一部を欠いているが、平基式石鏝である。サヌカイト製で 1.7g を測る。両主面ともに主剥離面が広く残る。

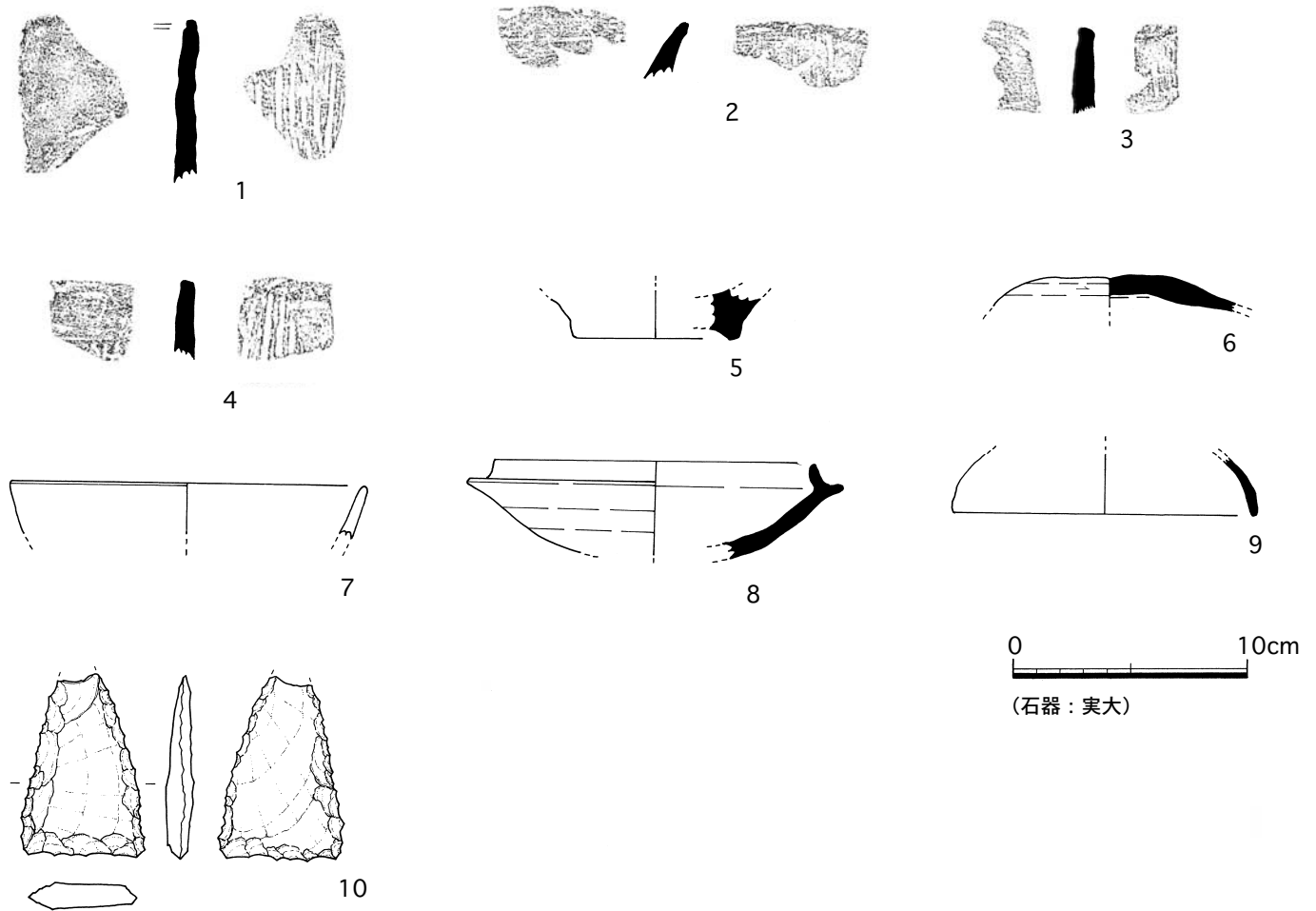


Fig.8 出土遺物実測図

ま と め

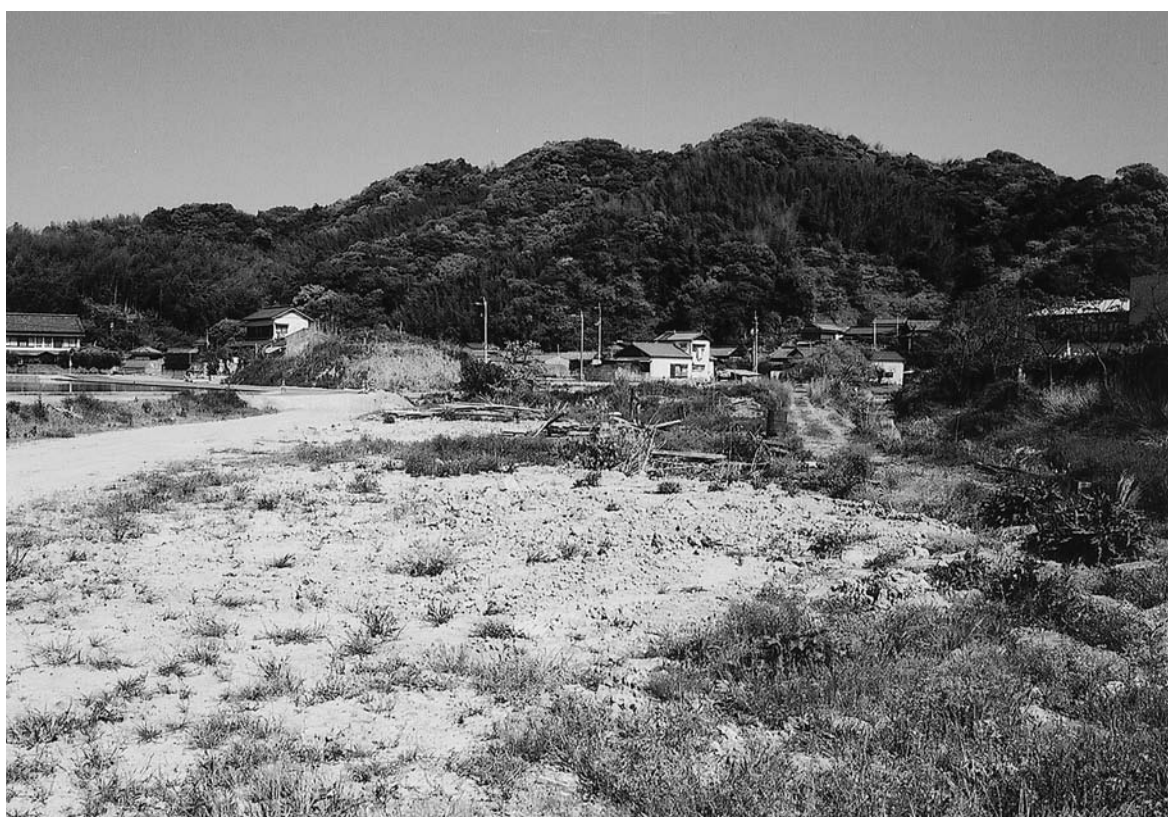
今次調査での検出遺構は、弥生時代後期のものと考えられる溝1条のみである。埋土は粘土であり、常時水が流れていたような状況を想定することはできない。床面の勾配から東の微高地から西方の低地に向かって掘削された溝状遺構であるが、機能・目的については明らかにできなかった。しかし、今次調査によって当遺跡の東南に接する竹ヶ鼻遺跡は微高地上に展開していることが明らかとなった。竹ヶ鼻遺跡の詳細は不明であるが、弥生後期の集落址の可能性があり、SD1はそこから延びる溝である可能性が十分に考えられる。春野町内の弥生時代遺跡は、これまで新川川中流域の山根遺跡や西分増井遺跡が知られていたが、1992年に調査を実施した南浦遺跡とともに下流域にも存在することが明らかとなった。

遺物については、縄文晩期土器の出土を挙げることができる。量的には僅少であるが、これまで春野町内では当該期の遺物はほとんど出土していなかった。西分増井遺跡や山根遺跡の縄文後期と弥生前期の空白を埋める資料として重要である。

遺物観察表

Fig. NO.	図版番号	出土地点・層位	器種	法量 (cm)	胎土	特徴	備考
Fig.8	1	層	縄文土器 深鉢		チャート・長石の砂粒を含む。	にぶい褐色。外面縦方向の2枚貝条痕、内面は口縁部直下に沈線、器面調整は条痕+ナデ。	
"	2	"	"		"	褐灰色。外面は縦方向の2枚貝条痕、内面は横方向の条痕をナデ消す。	外面煤け
"	3	"	"		"	"	"
"	4	"	"		"	"	
"	5	SD1 上層	弥生土器	底径 7.0	チャート他の砂粒を多く含む。	にぶい赤褐色。上げ底	
"	6	-	須恵器 坏		チャート、長石、石英粒を多く含む。	外面左 右のヘラ削り。内面横ナデ。	
"	7	層	青磁 椀	口径 15.0	灰色堅致	釉は透明度の強い薄黄色。貫入あり。	
"	8	"	須恵器 坏身	口径 13.6	チャート、他の砂粒を含む。	外面の3分の2は左 右の削り。受け部、口縁部内外、内面は横ナデ。	
"	9	"	須恵器 坏蓋	口径 13.0	チャート、長石、石英粒を多く含む。	内外面横ナデ。	
"	10	層	石鏃	全長 2.6 全幅 1.77 全厚 0.39 重さ 1.7g	-	サヌカイト。両主面に主剥離面が多く残る。	

写 真 图 版



調査前全景（南東から）

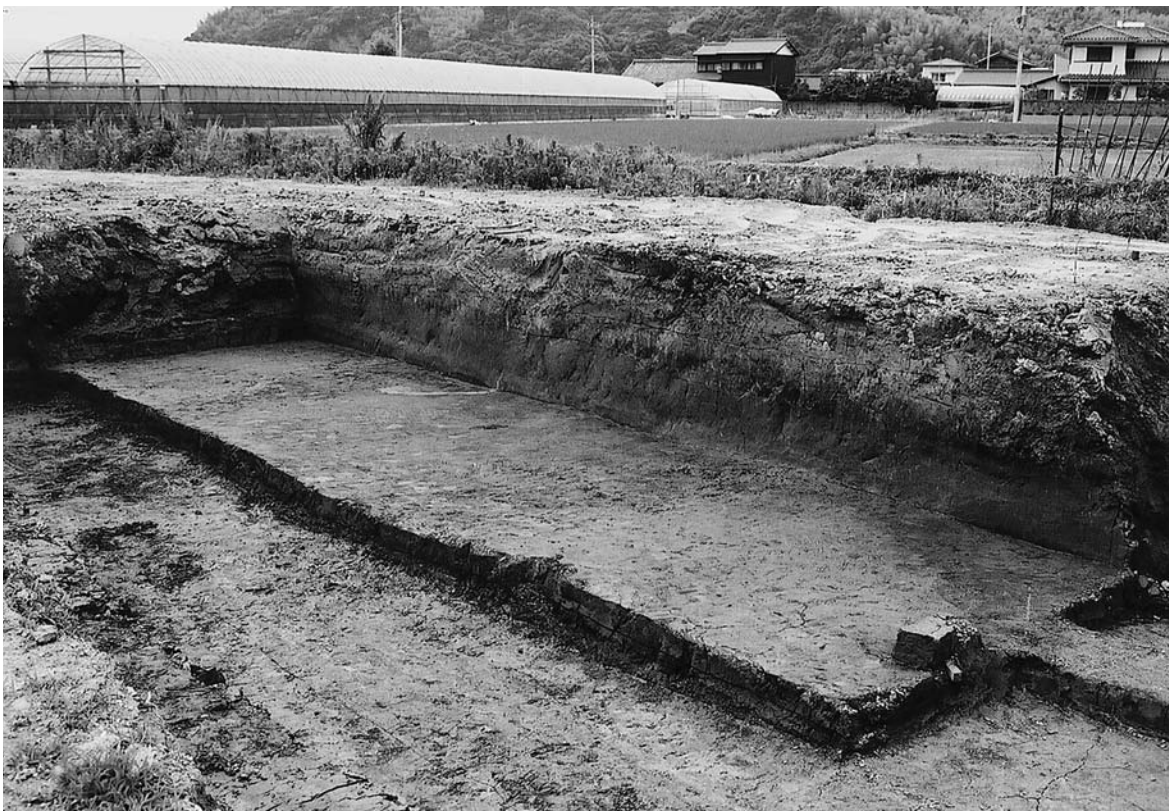


同 上（北西から）

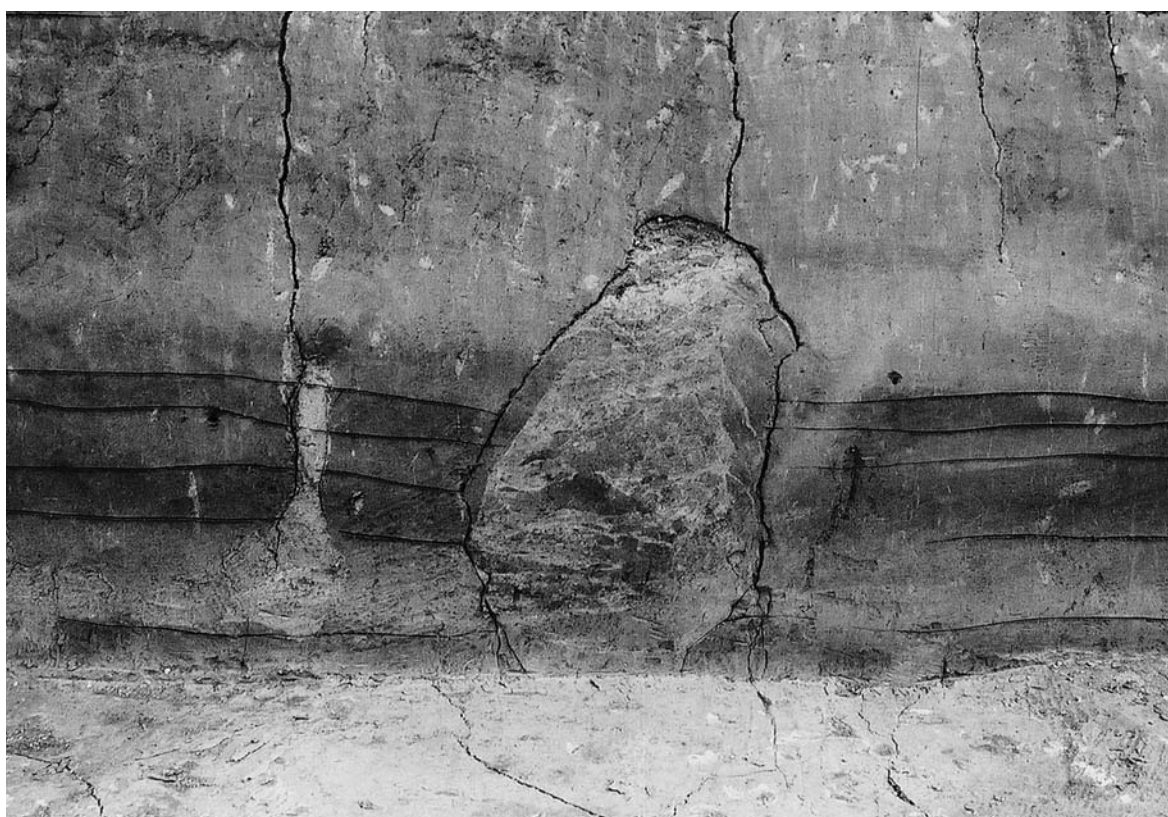
PL2



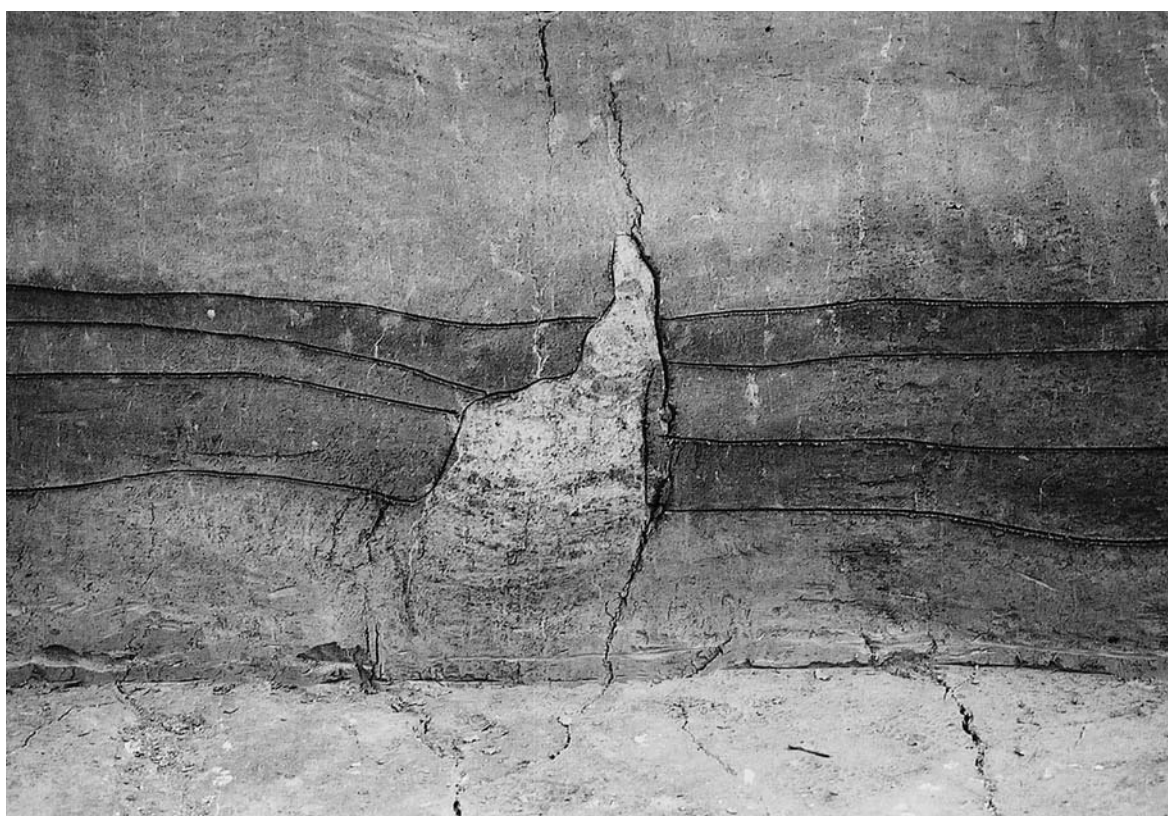
西壁セクション (a - b)



同 上



西壁セクション (c - d ・ 填砂)

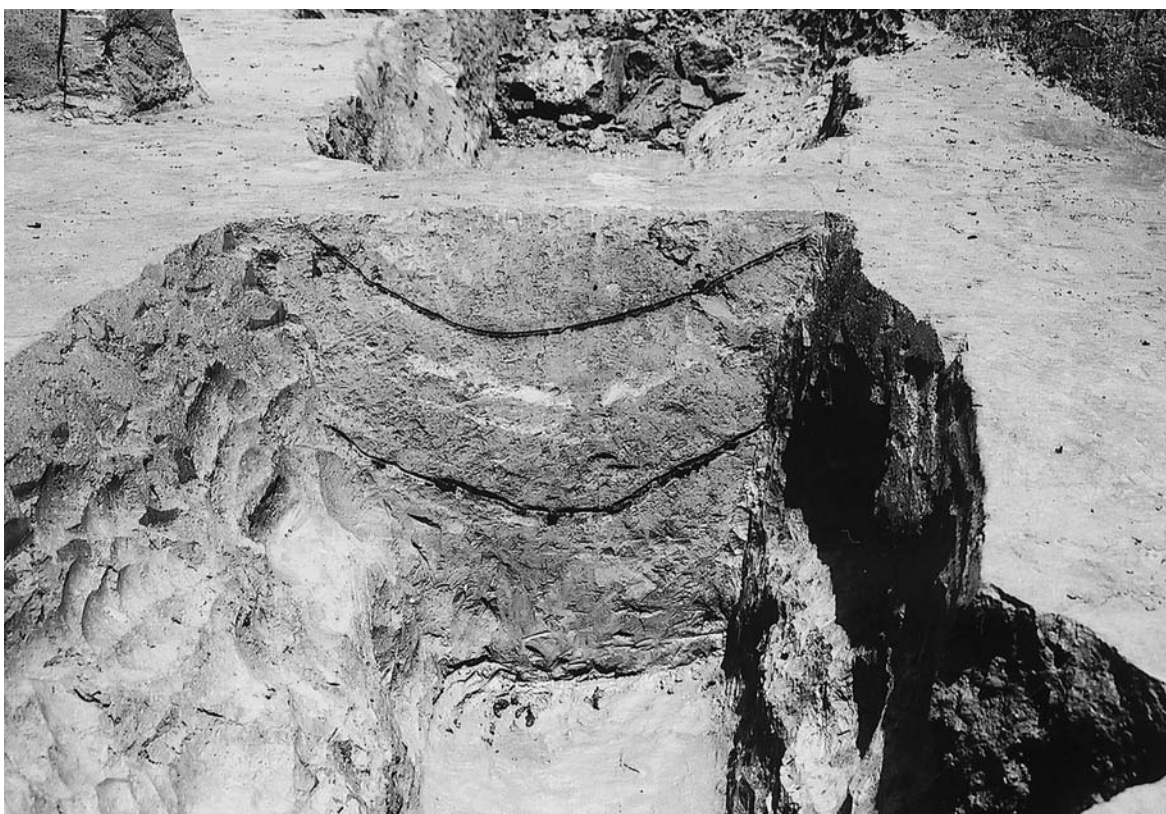


同 上

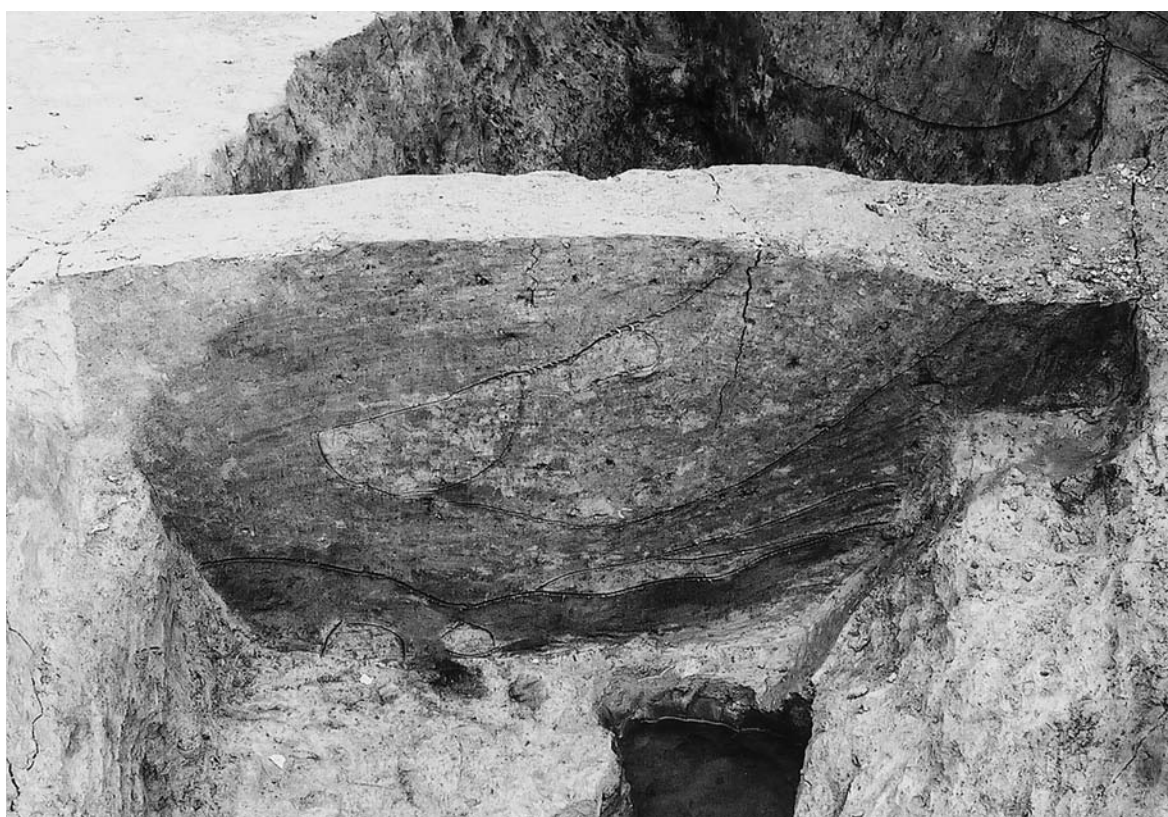
PL4



SD 1セクション



SD 1セクション



SD 1セクション



SD 1セクション

PL6



S D 1 完掘状況 (南東から)



同 上 (北西から)



縄文晩期土器出土状況（層）



同上

PL8



縄文晩期土器出土状況（層）



須恵器出土状況（層）



須恵器出土状況（層）



同上

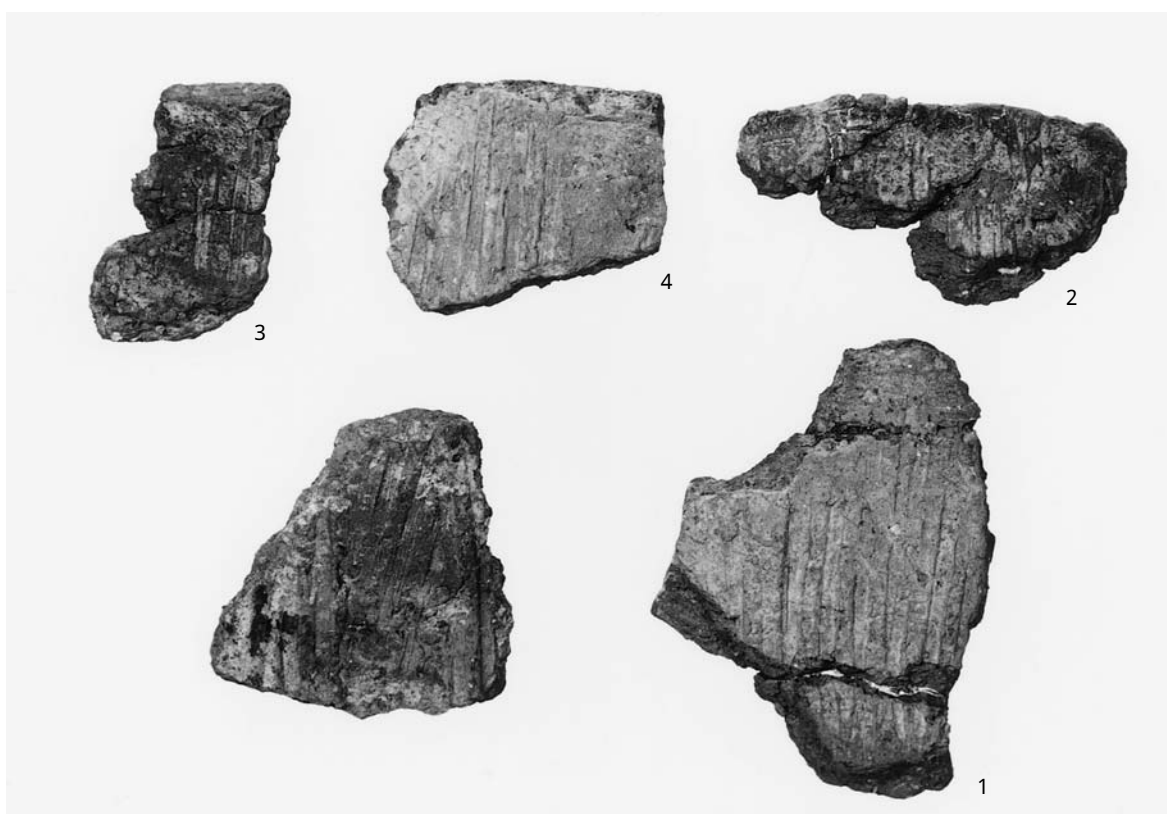
PL10



須恵器坏身(8)



須恵器坏蓋(6)



縄文土器深鉢

報告書抄録

ふりがな		きた かわ うち い せき						
書名	北川内遺跡							
副書名	広域河川改修事業に伴う北川内遺跡発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	高知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書							
シリーズ番号	第68集							
編著者名	小嶋博満							
編集機関	(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター							
所在地	〒783-0006 高知県南国市篠原南泉 1437- 1 TEL (088)864- 0671							
発行年月日	西暦 200年 9月 28日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯 °	東経 °	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
きたかわうち 北川内遺跡	こうち けん あがわ ぐん 高知県吾川郡 はるの ちのり にし もろぎ 春野町西諸木	383	340063	33° 29 50	133° 30 50	平成 13年 4月 26日 ~ 平成 13年 6月 19日	410m ²	芳原川改修 工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
遺跡	集落	弥生時代	溝跡		縄文土器 弥生土器			

北川内遺跡

200年9月

編集 (財)高知県文化財団埋蔵文化財センター

発行 高知県南国市篠原南泉 1437- 1

電話 (088) 864- 0671

印刷 (有)西村謄写堂